

季節を詠む、  
時流を詠む

四季の歌

美野里短歌クラブ

秋の夜の独り法師の留守番は空気までもが冷えびえとして  
 塾終えた孫からのLINE単純に「おやすみなさい」と時々よこす  
 歌つくりスイッチ入れよと準備する辞書にスマホにメモの用紙を  
 秋風に刈り取る稲の音冴えて筑波揚げばいわし雲浮く  
 寒きなか県議会選告示され羽鳥駅前熱弁ひびく

小川短歌会

遠く住む男孫から届きしミニバックびつくりうれし大事に使うよ  
 「一人居の時はお餅を食べないで」老いを案じて娘は出掛けたり  
 久々に届きし絵手紙花の色やさしさにじみなつかしきかな  
 しまい湯にきく青葉<sup>あおはすく</sup>臍遠世より息の呼ぶ声か三度<sup>みたひ</sup>は鳴かず  
 風なぎし夕べの菜園草引けば無理はするなと夫の呼ぶ声

玉里短歌会

朝刊を地方紙にして新しく見える景色に夕餉賑わう  
 花の無い山に椿のほころびて二月小鳥の声にぬくもる  
 兄と共に卓球をする体育館好返球に「よし」と声あぐ  
 登校の朝サクサクと音たてて霜柱ふみし遠き思い出  
 こちよく過ごせる時期は短くて季節の大半耐えて生きぬく

寄稿(中央高校芸術部)

試験勉強息詰まり窓を開け一息すると風の子が春を運ぶ  
 雨の後枯れ木に実る氷の実光かがやく黄金木



菱沼清子	菱沼友江	宇都宮和子	碓谷きえ	白根沢清香	根本智恵子	石田はる江	佐藤正	幡谷啓子	中根良子	松田通喜	高田久子	鶴田文男	正木敦子	石橋吉生	徳永一穂	助川佳穂
------	------	-------	------	-------	-------	-------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------

みづうみ俳句会

断捨離に想い出巡る春日向  
 老いてなほ少さな立志水仙花  
 剪定のまゝならぬ枝梅咲きて  
 急がずに歩む余生を過しつつ  
 縄とびや地を打つ音にはづむ声

みのり俳句会

来る年も良き年であれ七五三飾る  
 稜線を丸呑みにして冬落<sup>落ち</sup>暉  
 日の差して枯野の色のふくらみぬ  
 父に似て母に似て古希初鏡  
 風までも静め晴れたるお正月

櫂の会

時雨るるや耳鳴りふいに收まりぬ  
 玄関を時々のぞく鬼やらい  
 この寒さ今日も明日も明後日も  
 冬ぬくし菜屋に杖忘れおり  
 ペン先のきらめき誘う冬銀河

くるみ俳句会

縁側の吾に遊べと冬の蠅  
 兵舎あと蔦のからまる壁ばかり  
 春さざす嬰兒の一步の意思表示  
 岩礁の多き磯浜冬の波  
 立春の雨戸を開ける音高く

たまり俳句会

日脚伸び爺と孫とで香車成る  
 蠟梅の光りて香り広がれり  
 牙ゆる夜の息詰めて聴くカンパネラ  
 焼き秋刀魚香も楽しみてコップ酒  
 ふくら雀の帯高々と成人す

小美玉川柳会

卒寿過ぎ漬けたタクアン天下一  
 監督は鬼と言われて優勝す  
 ママチャリは子供が騎手でママは馬  
 招き猫両目細めて客定め  
 奮闘する春のロマン待つつ心

長島美奈子	榎本喜代子	長島さか江	長島久美子	三村れい子	立原千代	塚田文清	友水清子	佐藤清心	島田草	井坂あさ	村田妙子	岡島奈津江	岡代小夜子	木村小夜子	福内邦誉	堀内淑子	松崎昭子	安彦昭子	大曾根宣	小玉知子	斉藤富子	まめすけ	鶴田文男	野口初江	江島忠男	岡井昭夫	石井昇丘	小橋林岳悠
-------	-------	-------	-------	-------	------	------	------	------	-----	------	------	-------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------